

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス トムソーヤ			
○保護者評価実施期間	令和8年3月5日		～	令和8年3月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17人	(回答者数)	11人
○従業者評価実施期間	令和8年3月5日		～	令和8年3月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月28日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	庭を活用した屋外活動と室内活動を組み合わせ、児童の状況に応じた多様な支援を提供しながら、自然に触れる機会を取り入れ情緒の安定や社会性の発達を促している。また、古民家風の温かみのある環境を活かし、児童が安心して落ち着いて過ごせる空間づくりを行っている。	児童一人一人の体調・様子・その日の状況を把握し、無理のない範囲で室内活動と屋外活動を柔軟に組み合わせている。屋外活動においては、安全面に十分に注意しながら自然に触れる機会を意識的に取り入れている。職員間で情報共有を行い、児童が一貫した関わりの中で安心して過ごせるように務めている。	一人一人の発達段階や課題に応じた活動内容をさらに充実させるとともに、室内・屋外活動のバリエーションを増やし、より多様な経験の機会を増やしていく。また、職員間での情報共有や研修を通して支援の質の向上を図り、安心して過ごせる環境づくりを継続していく。
2	児童指導員として、5年以上の経験を有する職員が在籍し、児童発達支援管理責任者・指導員含め職員全体で情報共有・連携を図りながらチームとして一貫性のある支援を行っている。	児童発達支援管理責任者を中心に、日々のミーティングの中で職員の意見を積極的に取り入れるとともに、日々の出来事や児童の様子について共有する機会を設け、支援内容の振り返りや統一を図っている。	職員間での意見交換や情報共有の機会をより充実させ、支援内容の振り返りや検討を継続的に行っていく。また、児童一人一人の特性や変化に応じた柔軟な支援が行える様、職員の専門性の向上や連携の強化を図っていく。
3	遊びを通じた療育を取り入れ、児童が「やってみたい!」という気持ちを大切にしながら、自然と学びや成長につながる支援を提供している。	児童の発達段階や興味・関心のあるものに応じて、遊び・活動内容を調整し、感覚遊びや運動・制作等をバランスよく取り入れている。また、成功体験につながるような関わり方や難易度を工夫し、意欲や主体性を引き出しながら支援を行っている。	児童一人一人の興味関心・発達段階に応じた遊びの内容をさらに充実させるとともに新たな活動や教材の導入を行い、より多様な経験の機会をしていく。また継続して、職員間での活動内容の見直しを行い、支援の質の向上につなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	室内・屋外ともに活動内容が固定化しやすく、バリエーションの充実が課題である。	日々の支援において、児童の主体性や意見を尊重した活動を重視しているため、活動内容が固定化しやすくバリエーションの拡大に至っていない。	児童の主体性を尊重している一方で、活動内容が固定化しやすいため、今後は児童の意見を取り入れながらも新たな活動の提案を行い、バリエーションの充実を図っていく。
2	保護者同士の交流の機会を十分に設けることが出来ていない。	保護者の就労状況や生活スタイルの多様化により、参加可能な日時の調整が難しいことや、日々の送迎時のやりとりが中心となっているため、父母の会等の交流機会の設定に至っていない。	保護者の参加しやすい時間を考慮し、時間帯や方法を検討し、短時間での開催やオンラインを活用するなど、無理のない形で交流の機会を設定していく。
3	古民家風の環境の特性上、安全面や動線において工夫が必要である。	建物の構造上、段差やスペースの制約がある為、児童の移動や活動時において安全面や動線への配慮が必要。	環境整備や配置の見直しを行い、危険箇所の把握と改善に務めるとともに、職員間での共有を図っていく。また、児童への声掛けや見守りを強化し、安心して過ごせる環境づくりを継続していく。